グループ討議　課題

テーマ：紀要・学位論文以外のコンテンツを増やしたい

グループ名［　3D　］



2018年度機関リポジトリ新任担当者研修

JPCOAR　オープンアクセスリポジトリ推進協会

現状

紀要・学位論文
　　が搭載コンテンツのほぼ全て

⇒それ以外のコンテンツを増やしたい

コンテンツを増やすためには・・・

方策１：広報をがんばる

方策２：教職員負担の軽減

方策３：学術論文以外のコンテンツの充実

方策１：広報をがんばる

1.1　リポジトリの認知度を上げる

・一目でわかる説明ポスター／チラシをつくる。
・しおりなどのグッズをつくる。
・期間を決めてキャンペーンをする。
（オープンアクセスウィークなど）
・各学科／研究科のホームページへのリポジトリのバナー設置を働きかける。

方策１：広報をがんばる

1.2　リポジトリとはなにか理解してもらう。

- 各種図書館主催講習会の都度宣伝する。
- 学生向け情報リテラシー講座に「リポジトリからの資料の入手」を組み込む。
- 図書館報などで特集を組む。
  （大学広報誌にも打診）
- 電子ジャーナルの高騰などの現状と関連づけて、問題意識共有のきっかけとする。

方策１：広報をがんばる

1.3 リポジトリに登録してもらう

- まずは図書館関連委員に登録を依頼する。
- 図書館関連委員以外の教員の論文を調査し、登録を依頼する。
- 科研費論文のオープンアクセス化推奨をアピールする。
- オープンアクセスを、大学の方針の一つにしてもらえるよう働きかける。

＝オープンアクセス方針策定を目指す

※URA等他部署を巻き込む

方策１：広報をがんばる

1.4 登録数が増えたら見せ方を工夫する

・登録数の伸びをグラフなど可視化してアピール。

・図書館のトップページでアピールしたり、大学のHPなどで紹介してもらう。

※特に、「方策３：学術論文以外のコンテンツ」で登録されたコンテンツは、その大学ならではのものが多いと考えられる。

方策2：教職員負担の軽減

2.1　教員負担の軽減

・公開にあたって文書は必要（教員にとっては負担）
⇒オンラインで申請を完結させる

2.2　図書館職員負担の軽減

・図書館職員にとってもコンテンツ増加は負担（著作権処理、事務作業の増大）
⇒外部への委託：複数大学の作業を一括して請け負ってもらう

方策３：学術論文以外のコンテンツの充実

3.1 動画、音声、教材なども登録可能とし、広報の際にそのことを伝える。

・著作権処理については図書館員が担当

※公開にあたって著作権処理やマスキング処理が必要となることも（この点を軽減できないと、図書館側が消極的になる）

3.2 事例がたまってきたら・・・

・著作権処理についてマニュアルを作成し、図書館間で共有する。

環境・制度の変化に対する期待①

行政や競争的資金配分機関に対しての期待

機関リポジトリを含むオープンアクセスへの貢献の度合いを

・研究機関の評価
・競争的資金の獲得

につなげてほしい。

環境・制度の変化に対する期待②

教員や図書館職員の負担軽減への期待

・機関リポジトリでの公開に際して、著作権の柔軟な適用を可能とする法的整備や社会的合意の形成

例）公益機関に属した成果物で現在一般公開しているものは、許諾不要で「機関リポジトリ収容可」とする。